

大莢で草丈コンパクトな品種特性を活用！

枝豆『莢音(さやね)』を栽培して JA 田子(たっこ)町より紹介

雪印種苗(株)
畑作園芸本部 営業課



(左側) 枝豆生産者 西村孝二氏 (右側) JA 田子町 澤口 淳 指導係長



田子町の位置

JA 田子町枝豆栽培に関する概要部会員
150名、栽培面積30ha
出荷先 東京青果
出荷 7月~10月
出荷体系 枝付8割 莢もぎ2割

地域概要

田子町は、青森県の南部地域に位置し、南に岩手県(二戸市)西は秋田県(鹿角市)に隣接した山間地域の町で、ほど近くに観光地で有名な十和田湖があります。

気候条件は、12月下旬から3月中旬まで積雪期間となりますが、盆地により夏は比較的高温に恵まれています。

枝付出荷産地として有名ですが、その他にも、良質ニンニク生産地としての商品ブランド化を進めております。

『莢音(さやね)』導入の経緯

JA 田子町では、より良い枝豆生産出荷を目的に、毎年枝豆品種比較試験が農協指導課と生産部会によって行なわれております。

『地域に合った品種導入が、非常に重要であり、その継続が結果として産地の評価につながる。(澤口係長)』

そのなかで、平成16年より弊社品種『莢音』の試作を開始。初めは、直播栽培で行いましたが、枝が思うようなサイズにまとまらず、翌年に移植栽培をしたところ、調整しやすいサイズに仕上がったため、18年より本格的な栽培に取り組み始めました。

『莢音(さやね)』導入のポイント

- 1 非常に莢が大きい
 - 2 コンパクトで調整に最適
 - 3 食味が良く枝豆本来の味がする
- 以上3点により導入に至りました。

『莢音(さやね)』栽培の概要

播種時期 4月20日~5月5日
栽培 マルチ栽培
収穫時期 7月中旬~8月中旬

『莢音(さやね)』導入による評価

- ①以前作付けされていた品種より、莢の大きさが格段に大きく市場評価が高かった。
- ②枝付出荷での調整作業が、従来品種に比べ非常にしやすく、作業効率が良くなった。
- ③収量においても、従来品種に比べ約10%の増収が得られた。



『英音（さやね）』調整作業風景（家族での作業）



袋詰（枝付）の状況 1袋300g

『英音（さやね）』今後の取り組み

これらの評価に基づき、農協としては更に『英音』を推進する考えです。今年は、従来品種との平行出荷をしておりましたが、市場より従来品種は莢が見劣りするとの評価を受け、今後は『英音』で統一を図って行きたい意向です。又、移植栽培において『英音』は早生化しやすい為、トンネル栽培での試みも行われております。

枝豆生産への取り組み

枝豆生産販売につき、ここ数年間は販売価格の低迷、天候不順による出荷

量の伸び悩み等が続いておりましたが本年については、8月以降好天にも恵まれ出荷量、販売価格においても良い結果が得られそうです。しかし、その一方で今後は生産者の高齢化も進むなか、枝豆産地としてどのような方向に持っていくかが課題となっております。現在の取り組みの重点は

- 1 特別栽培（減農薬）の推進
- 2 適品種選定による生産効率の向上
- 3 栽培講習会による技術普及強化

でありこれらを生産者と共に進めて行き、生産者の所得向上に貢献し将来的には最盛期の栽培面積60haにしたいとの考えです。

澤口係長より、枝豆生産は設備投資

を必要とせずハサミ1本で作業が可能であり、高齢化時代になっても他の作物より可能性はじゅうぶんあるとお話を頂きました。

おわりに

JA田子町野菜指導課は、生産者所得向上に向け講習会、現地検討会、視察等の事業を積極的に働きかけています。部会員も積極的に事業に参加しており、目標栽培面積60haは間もなく達成される見通しとなっております。



コンパクトな『英音（さやね）<移植栽培>』



葉を取ると袋詰サイズ（移植により主莖長15cm前後になる）